

第一回関東小学生作文コンクール 「海外に紹介したい日本のこと」  
〈入選〉

和の心

聖心女子学院初等科 六年 小浜 ゆきの

日本は海に囲まれている島国です。豊かな自然にめぐまれ、日本特有の文化があります。

今日は、外国のみなさんにそんな「和の心」を旅してもらえたらいいです。

では、まず、「おもてなし」です。二十二年のオリンピック招致委員会で、たき川クリステルさんがやった、あの「お・も・て・な・し」からいきましよう。おもてなしには2つの意味があると思います。1つ目は相手をもてなす、ということ。私は、世界に日本のやさしさを伝えたいです。

2つ目は表裏なし。表うらがえない心で、相手をむかえるということです。

外国のサービスと、日本のおもてなしはひとあじが違います。サービスは、店員の人がおしぼりをもってくるような、お客様にとつてはあたりまえのことでも、おもてなしは、おしぼりをわたすときに言葉をかける、部屋に一言メモをおくなどそのちよつとした気づかいがおもてなしです。

自分のことより、相手のことを想い歓迎するのが日本のおもてなしだと私は思います。

次は、ものを大切に作る心です。その1つがおさがりだと思っています。私は三人姉妹の三女なのでおさがりが多くて、一人っ子の子がうらやましくなったりします。でも、私の二人の姉も昔はこんなのをきっていたんだ、と少しうれしくなります。また、「その服かわいいね。」といわれると、とつておいてくれてよかったと思います。おさがりは、時間をこえても気持ちをつないでくれる服です。

最後の旅は、思いやりです。

二千十一年三月十一日。東日本大震災がおこりました。東北地方では、津波がおこり、たくさんの方の命が失われました。それでも、ゆずりあつて一度もクラクションをならさずにじゆうたいをすすんだ車、列にならんでおにぎりをかう人、自分のおかしをたなにもどして、そのお金をぼ金した男の子。みんなが思いやりの気持ちをもつてはげましあいながらあの一日をすごしました。どんなに自分がつらくても、苦しくても、相手のことを思うのが思いやりだと思います。

日本は、このような和の心をもって独自の文化をつくりあげてきました。私は、この和の心をほこりに思います。

外国のみなさんも、実際にこの日本に来て自分のほだで「和の心」を感じとってみてください。